

# ピッケのつくるえほん活用実践報告

## － 相手を意識したオリジナルえほんづくり －

増井泰弘（丸亀市立城北小学校）実践当時

概要：iPadと「ピッケのつくるえほん」を活用しての、相手を意識したオリジナル絵本づくりの授業実践。子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び(協働学習)を通して、つくる喜びと伝える楽しさを育てる。

### 1 はじめに

丸亀市立城北小学校6年白組(男子12名女子20名)での実践を紹介する。教室にiPadが19台、児童2人に1台の環境が整った。iPadと「ピッケのつくるえほん」を活用しての、相手を意識したオリジナル絵本づくり、子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び(協働学習)に取り組んだ。

### 2 活動のねらい

6年生は、ペア学年である1年生と、年間を通じて様々な活動を行っている。ペア読書もその1つで年に数回実施している。これまではただ単に6年生が1年生に本の読み聞かせを行っていたのだが、今回は、iPadと「ピッケのつくるえほん」を活用してオリジナル絵本をつくり、ペアの1年生にプレゼントするというめあてを子どもたちに持たせ活動に取り組んだ。絵本を自由につくるのではなく、ペアの1年生という相手を意識しての製作活動、そして、実際の製作は2人組で行う、つまり個人作業ではなく子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び(協働学習)に取り組ませるといふ2点が、本活動のねらいである。

### 3 絵本づくり

1時間目は、アプリに慣れるという意味で自由に操作させた。基本的な操作は教師が説明したが、1時間の授業が終わる頃には、グループの枠を超えて、「それどうやったん?」「どないするん?」と、自然発生的に子どもたち同士の



教え合い、学び合いが行われていた。子どもたちの操作スキル習得も早く、協働的な学びの効果といえる。

2時間目から実際の絵本づくりに入った。あらかじめストーリーを決めておいて、絵本づくりを行うのではなく、友だちと相談しながら、お話の展開を考えていく。想像力や創造力を働かせながら、表現していく。つくる楽しさを感じながらの絵本づくりであった。また、1年生はどんなふうを感じるかな?絵だけでなく、文字や漢字にも気をつけ、相手を意識しながらの



絵本づくりであった。結局、1時間の作業では、完成には至らなかった。もう1時間ほど、製作の時間を予定していたのだが、子どもたちは、昼休みなどを利用して、作業の続きを自主的に行っていた。iPadは、子どもたちの身近なところに置いておいた。何か作業を行うためにPC教室にわざわざ行かなくてもよい。それがiPadを



活用した利点の1つである。授業時間だけでなく休み時間も含めて、いつでもさっとiPadを取り出して、どこでもその作業の続きを行うことができる。翌日には、ほぼ全てのペアで絵本は完成していた。

3時間目から、印刷製本作業に入った。無線LAN機能内蔵プリンターを活用した。iPadからの設定で、直接印刷できるということで、順調に印刷・・・の予定であったが、問題が発生。印刷速度が十分ではなく、予備のプリンターを用いて、有線での印刷を行うなどの対応が必要



であった。16グループ全てのデータを印刷するのに、1時間近くかかってしまった。教室で使用するプリンターの処理能力に依るところの問題ではあったが、印刷作業は今後の課題である。製本作業（切る、折る、綴じる、背表紙をつける）は、グループで行ったので、順調に進んだ。また、今回はA4用紙に印刷した、小さな絵本だけでなく、ペアの1年生への読み聞かせを行うことを考え、大判プリンターを用いて、A1用紙の印刷した絵本も同時に作製した。A1用紙への印刷は、教師が行い、製本作業は子

どもたちが行った。なお、iPadで作製した絵本は、画面プレビューで、プロジェクター等に投影できるので、印刷製本をしないうという選択も考えられる。

#### 4 ペア読書・読み聞かせ

1年生の教室で、ペア読書が行われた。6年生からオリジナル絵本のプレゼントがあることを伝えると、1年生にワクワク感が高まっていくのが感じられる。さっそくペアに分かれての読み聞かせであ



る。自分たちが創り出したオリジナルの絵本。読む声が生き生きとしているのが伝わってくる。1年生もあつ



という間に絵本の世界に引き込まれていく。いつになく温かい雰囲気のパラ読書となった。

#### 5 最後に

子どもたちにとって「ピッケのつくるえほん」のアプリ操作はもちろんiPadを活用しての授業は、初めての体験であった。しかし、意欲的に創作活動に取り組むことができた。1年生からのお礼の手紙を受け取った6年生は、照れながらも大変うれしそうであった。

今回は6年生がペアに1年生に絵本をプレゼントするという設定であったが、1年生が、幼稚園や保育園の子どもたちに絵本をつくるという実践も十分可能である。次の実践につなげていきたい。

実践者 丸亀市立郡家小学校 増井泰弘